

所沢市民文化センターミュージズ・ホールオルガニストがオルガンの“今”を発信！

ミュージズ・オルガン通信

2023年6月号

皆様こんにちは。第4代ミュージズ・ホールオルガニストの原田真侑です。三原麻里さんがお届けした5月号に引き続き、今回も世界的オルガニスト、オリヴィエ・ラトリーに関するトピックをお届けします。彼が正オルガニストを務めるパリのノートルダム大聖堂のオルガンは、まさに壮大なスケールの楽器です。この記事を読んで6月25日のミュージズでのコンサートもぜひお楽しみください！



世界遺産パリ・ノートルダム大聖堂の正オルガニストが
6月25日にミュージズに初登場！

ノートルダム大聖堂の美しく貴重なオルガン

パリのノートルダム大聖堂は、常に多くの信者や観光客で賑わう、世界随一のカトリック教会です。右の写真は、オルガンビルダーの名匠カヴァイエ=コルが手がけた貴重なオルガン演奏台（コンソール）。新しい演奏台を設置するために取り外されましたが、オルガニストが南塔を登る通路の途中に保存されています。



撮影：原田真侑



現在も大切に飾られている演奏台は、フランスの著名なオルガニストで作曲家のルイ・ヴィエルヌ（1870-1937）が弾いていたもの。

2023年6月25日[日] 15時開演 アークホール オリヴィエ・ラトリー[オルガン]
一般 2,000円 **メンバーズ特割 1,500円** ミュージズチケットカウンター ☎04-2998-7777

公演詳細



プログラムなど詳細はちらし、ミュージズHPをご覧ください

ノートルダム大聖堂の“顔” 壮麗なオルガン

大聖堂の顔とも言えるオルガンは、5段手鍵盤と足鍵盤、115 ストップ（音栓。左右にあるドアノブのようなもので音色を選ぶ機構のこと）、7952 本のパイプを持つ壮大な楽器です。左の写真は現在使われている最新式の演奏台。コンピューター機能が導入され、多数のレジストレーション（音色の組合せ）を記憶し、奏者自身が自在に操れるようになりました。ラトリーのプロフィール写真（右）はここで撮影したものです。2019 年に起きた火災でも、奇跡的にオルガンは大きな被害を受けることはありませんでした。現在はメンテナンス中で、2024 年中のお披露目を目指しているそうです。



撮影：原田真侑



©Deyan Parouchev

ノートルダム大聖堂の壮麗なオルガンの内部には、様々な形状のパイプがぎっしりと並んでいます。

私も内部を覗かせてもらったことがあります。まるでパイプの森に迷い込んだような神秘的な空間です。ここから無限の響きが生み出されるのです。



多彩なレジストレーションの変化に注目！



ミュズのオルガンは、4 段手鍵盤と足鍵盤、75 ストップ、5563 本のパイプを持つ日本最大級の楽器。オルガニストはストップを様々な組み合わせることで多彩なレジストレーション（音色の組合せ）を作っています。その作り方はオルガニストによって異なり、同じ曲でも人によって全く違う響きとなります。23 歳の時からノートルダム大聖堂の巨大なオルガンを弾きこなしてきたラトリーが、ミュズのオルガンではどんな音を響かせてくれるのでしょうか？音色の変化にもぜひご注目ください！



★ミュズのオルガン内部の様子★
オルガンの秘密を三原麻里さんとレポート

Profile <ミュズ・ホールオルガニスト 原田真侑>

東京藝術大学オルガン専攻卒業、2019 年 3 月に同大学院修士課程修了。大学院在学中に渡仏し、サン＝モール音楽院にて学ぶ。2018 年夏にオルガン・クラヴサン両専攻を最優秀の成績で修了。マルシャル＝リテーズ国際オルガンコンクール（2017）審査員特別賞受賞。2020 年よりミュズのホールオルガニストを務め、オルガンスクールでの指導やオリジナル企画のリサイタルで好評を得ている。